

事業所名		瀬戸市のぞみ学園		公表日	2026年 3月 3日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	○		・カムダウンが必要な児は、クラス内に入れないため、他クラスの前の廊下を利用したりしている。 ・空き部屋や廊下も使用し、子どもたちが落ちていて過ごせるようにしている。	
	2	○			・適切だと思うが、一人ひとりに寄り添った療育をしたいとなると、人手が足りないと感じる時もある。 ・法的には適切なものかもしれないが、個別に対応が必要な場面になると難しいこともある。特に医療的ケア児は1:1以上に職員が必要。 ⇒看護師も必要に応じて療育に入っている。個別対応が必要な場合は、担任だけでなく事務室職員や代替え職員も療育に入っている。
	3	○		・今は何をすべきか視覚的に分かるように知らせたり、パーテーションを用いて場を仕切ったりすることを配慮して行っている。 ・スケジュールや個別の視覚支援等、工夫されている。 ・クラス内では、危険がないように物の置き場を工夫している。	・適切に構造化されていると感じるが、施設全体の設備の古さはある。⇒改修工事をして、出来る限りの改善に努める。
	4	○		・汚れたら拭いたり、療育終了後に掃除をする等、清潔にする事を努めている。 ・活動に合わせた空間になるように見直している。 ・手が行きとどかない所や人手の足りない所を業者の方に清掃していただけるようになり、より心地よく過ごせる環境が作れている。	・心地よくは過ごせるが、部屋が狭く玩具など置く場所がない。⇒必要な玩具のみクラス内に置き、使用していない物は倉庫などの片づけるようにする。
	5	○		・空き部屋があり確保されている。	・カムダウンの場所が基本的に確保されているが、来客が来ている時は確保が難しい時もある。⇒来客時は廊下なども使用し、確保に努める。
業務改善	6	○		・毎日療育後に反省をし、出た意見を療育に反映する事ができている。	
	7	○		・職員会議で話し合う場が設けられている。 ・保護者から出た意見は会議や打ち合わせの場で共有し、話し合うことで、業務改善に繋がっている。	
	8	○		・事例検討会で困った事案について話し合うことができている。 ・行事等、行う都度、振り返りや反省をし、次年度へ繋げたり、1日の終わりに各クラスで反省をし、出た意見を業務や療育に繋げたりしている。	
	9		○	改善に向けてみんなで考える事ができている。 第三者評価は行っていない。必要なら、今後考えて行く。	・今後も支援の質を上げていく努力をします。
	10	○		・確保されている。	・様々な研修案内の内容がある。平日、なかなか療育をぬける事が難しい状況ですが、もっと参加してみたい。 ・それぞれの職員が研修に参加できる機会を設けているが、職員の体制上参加できない事もある。⇒できる限り職員の体制を整えたり、業務の内容を精査したりして、研修参加できる機会を増やしていきます。
	11	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画は今年から保護者と一緒に目標を決めるなどし、よりニーズに寄り添った計画作成が継続されている。</li> <li>・書類等や懇談の方法や内容を見直し、より子どもと保護者のニーズに寄り添った支援計画を作成できるようになった。</li> <li>・日頃から気になった子どもの姿やできたこと、できかかっていることをこまめにアセスメントシートに書き込むようにしている。シートを基に、計画を作成できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を作成する上で、保護者の意向を大切にしている。個々の子どもに対しては日々、アセスメントを行っている。しかし、自分に余裕がなく担当のお子さんしか、しっかりと把握できていない。⇒クラス全員の事をしっかりと見て姿を細かく把握できるようにする。</li> </ul>
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束や、虐待防止に向け、日々の態度について振り返る機会がある。</li> </ul>	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの児の目標をまとめた紙をクラスの職員に配布し、共通理解ができるようにしている。</li> <li>・計画した目標や行っていきたい働きかけをクラス内職員で周知し、同じ関わりができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス打合せが全体で時間を取れておらず、どこまで共有できているが曖昧になっていると感じる。⇒書類にまとめて報告し、クラス職員みんなで統一した支援ができるようにする。</li> <li>・支援内容はクラス職員に共有しているが、計画の説明を細かく出来ると良い。⇒まとまった時間は持てないため、日々の反省の中で伝えるようにしている。</li> </ul>
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になった姿や、成長した姿をアセスメントシートに記録し、支援計画に反映できるようにしている。</li> <li>・日々の記録がアセスメントになるようにし、事務の効率化を行っている。</li> </ul>	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>されている。</li> </ul>	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスの職員間で、子どもの姿にあわせながら日々のプログラムを考えている。</li> </ul>	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に合わせて、考えられている。</li> <li>・活動の中に目新しいものを加えたり、子どもたちがその時に興味のあることを組み込んだりして、工夫して療育を行うように心がけている。</li> </ul>	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目毎、個々に合わせた計画が作成されている。</li> </ul>	
20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々行われている。</li> <li>・受入れ時間の延長により、短時間勤務の職員との打ち合わせや反省の時間は取りにくくなっているが、隙間時間を見つけて行うようにしている。</li> <li>・以前より打ち合わせ時間は減ったが重要なことはなるべく朝の時点で共有できるようにしている。こどもの姿に応じて、関わる職員がかわったりと、上手く連携して子どもと関わる事が出来ている。</li> </ul>		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・できている。	・バス乗車や延長療育の実施で振り返りのできない時もある。⇒療育後にできない場合は、出来る限り翌日の登園前にできるように時間を確保する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・日々、姿を記録している。 ・記録に残す事を忘れる事がある。習慣づける。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	行われている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・障害児相談支援センターの職員から、聞き取りがある。 ・サービス担当者会議の実施は今年度まだないが、あれば担当が参加する。	・1年目の職員が参加する時は、内容によっては返答に困ることも多かった。⇒理解不足が原因であるため、事前に情報収集を行い、自分に何を求められているのかを把握して参加するように事前準備を図っていく。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・医療的ケア児は、地域の病院から看護師が来てケアをする等、連携がされている。 ・公立の運営ということもあり、相談支援専門員や市の社会福祉課、特別支援学校や病院等と顔の見える関係が作れている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・併行通園に向けて、転園児の交流を実施している。 ・併行利用については今年度は試行期間であるが、来年度の本格実施に向けて準備を進めている段階である。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・必要な時は、学校へ児の状況を伝えている。 ・引継ぎ書を作成し、情報共有が出来ている。	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○	他事業所を使っている児に関して、必要時情報共有をしている。	・事業所との連携を図り、在園児や卒園児が利用している事業所の見学から始め、関係が作れると良い。⇒可能な範囲で他事業所の見学を行っていく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	専門スタッフに来園してもらい、専門的な視点を療育の質の向上につなげている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○	園長やセンター長が参加し、資料を回覧している。	
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。(31は、事業所のみ回答)				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・交流する日程や行事は多くないがある。	・最近、感染症流行等の理由であまりできていない。 ・交流の実施はあるが、以前ほど活発なものではないので、もう少し気軽に交流ができると良い。 ・隣接する保育園と交流の場を増やしていいと良い。 ・昨年度よりは前進しているが、少人数でも他園のこどもと活動する機会が持てると良い。⇒感染症が流行る時期が例年よりも早かった。保育園と相談しながら、なるべく早い時期から交流を行っていく。・保護者が交流を期待していると感じるので、南保育園との交流反省会の時に、来年度の年間計画の案を作成し、交流日と内容を予め決めていけると漏れがない。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・登降園時、連絡帳、親子通園で実施している。 ・登降園時や親子通園でこどもの成長している姿を共有したり、連絡ノートに書かれている内容から家での様子を把握し、情報共有をしている。 ・親子通園時に、こどもの姿や現時点での課題など伝えたり、家庭での様子を聞き、他職員とも共有するようにしている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		療育講演会など、保護者が参加できる機会がある。	・情報の提供はあっても、おすすめができていない。 ・良いものではあるが複数回連続の受講であり、参加のハードルが高い。⇒職員も家族支援プログラム自体を把握し情報提供できるように努めていく。また保護者会等で情報提供を行う機会を設けていく。
保護者への説明責任等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		変更した都度、同意書ももらっている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・個人懇談で伝えている。 ・アセスメントシートを記入していただき、それに沿って計画を作っている。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個人懇談を行い説明し、同意を得ている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳に解決案を伝えたり、関係機関の情報を伝えたりしている。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・今年度より、あそぼう会で保護者やきょうだい児が参加できるようにしたりと、昨年度よりも機会は増えている。 ・きょうだい同士で交流する行事を行うことは、療育の体制上難しいが、きょうだい児も含めた家族と一緒に楽しめる行事は開催出来ている。 ・保護者会の活動は支援しているが、保護者同士での交流の場は難しいが、クラス懇談を行い紹介の場を設けている。	・きょうだいも参加できる行事はあるが、きょうだい同士で交流する機会にはなっていない。・きょうだい支援については今後の課題である。⇒きょうだい児も含めて家族で交流する行事の中で、関わられるようにする。またきょうだい児を見かけたときには、一言でも職員が声をかけるように意識をもっていく。
40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		基本的にその日のうちに、学園で検討し、伝えている。		
41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		Instagramが今年度から開始されて、周知に活用されている。 Instagramで行事の様子やホールの設定、製作物等を発信している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明責任等	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・個々に応じて、視覚支援をする等、工夫している。	・外国籍の保護者に対しては、配慮をおこなっているものの難しさはある。⇒多言語コールセンターや翻訳機、視覚支援などを活用して、少しでも意思疎通ができるように努めていく。
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		近隣の施設(愛厚ホームや水無瀬中学校)などに出かける事は出来ている。	・コロナ前のように、のぞみ風の案内を地域にも広げて行く。⇒のぞみ展については広報やInstagramなどで周知し、地域住民に来園してもらう機会があると良い。また、近隣市町で取り組んでいることがあれば、六市一町の交流会などで、内容や方法を聞いてみる。
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)を作成し、定期的に訓練を行っている。	
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入園時に確認をしている。状況に合わせて、受診に同行する等しててんかん発作の把握に努めたり、保護者と相談しながら、発作時の対応を決めている。	
	48 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		対応している。	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で、支援が行われているか。	○			
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との関係が図れるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・共有している。 ・報告書を書いたり見たりすることで、自分の意識がかなり変わる。共有の大切さを実感した。婦りの打ち合わせで発表するようになってから、よりヒヤリハットを意識するようになった。	・毎月印刷し回覧が出来ているが、記入の習慣化が難しい。⇒現在、婦りの会で報告しすぐに記入する方法を試しているの、継続していく。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修が定期的に行われている。日頃の行いを振り返る機会もある。 ・研修を行っているため、「これは虐待にあたるか」等、より慎重に療育を行うようになった。虐待防止に繋げる事ができている。	・研修を行っているが、日々の療育の中での気になる出来事を気軽に話せる機会があると良い。⇒日々の反省で疑問に思ったことは聞き合う意識をもてるよう、全職員心がけたい。また対応の振り返りができるような機会を設けます。
53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		年度初めにも前もって説明している。		